

令和7年度 自己評価結果票

社会福祉法人三原のぞみの会
幼保連携型紅梅認定こども園

1. 教育・保育目標

◆子どもの発達の連続性を考慮した環境の中で、0歳から就学前までの一貫性のある教育・保育を行い、一人一人がその子らしさを発揮し、共に育ち合う生活を通じて、心豊かにたくましく生きる力を育てる。

<めざす子ども像>

- ・自分のしたい事に夢中になって取り組む自分大好きな子ども
- ・友だちと心を通わせてあそびや生活を作り出せる友だち大好きな子ども
- ・自然の神秘さや不思議さに感動し生き生きとあそぶ自然大好きな子ども

2. 本年度重点的に取り組む目標

- 1, 法人理念、保育目標、目指す子ども像を全職員で再確認し、意識統一を図る。
- 2, 子供が主体的に取り組める行事、活動内容の見直しを行う。
- 3, 職員自身が描くキャリアデザインを把握し、ライフステージに応じた働き方を可能にしていくよう働き方の選択肢を整理していく。
- 4, 少子化での園児減少に伴い、園を知ってもらう工夫をしていく。来年度からスタートする「子ども誰でも通園制度」がスムーズに開始できるよう整備していく。
- 5, 感染症の流行や大きな災害に備え、地域との連携等引き続き BCP 整備に努めていく。

3. 教育及び保育の内容の概要

- ・0歳児 特定の保育教諭との応答的なかわりの中で、安心して過ごせるように情緒の安定を図る。
- ・1歳児 一人一人の気持ちを理解・受容することにより、子どもとの信頼関係を深め、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする。
- ・2歳児 自己主張をしたり、反抗したりするときの一人一人の気持ちを受け止め共感し、自我の育ちを援助する。
- ・3歳児 自我の成長を踏まえ、子どもの気持ちや考えを受容し、主体的な行動を促していく。
- ・4歳児 自分の力を発揮していく中で、「達成感の喜び」や「満足感」を味わい、自信を持って行動できるようにする。
- ・5歳児 自分への自信と友だちへの親しみや信頼感を高めていくようにする。

4. 成果

- ・ 保育理念など、職員全員での研修を定期的に行い、園全体でのスキルアップをしていった。
- ・ 行事や、保育内容を見直しこどもの発達状況に合わせて改善を行った。子どもが自らやってみたいという気持ちを地域の小学校と連携を行い、アプローチカリキュラムも照らし合わせを行う。
- ・ 業務改善アンケートを行い、職員一人一人が無理なく働けるよう、「お互い様」のスローガンをかけ、働きやすい職場づくりに努めた。
- ・ 実際に地震が起きた際、振り返りを行い、具体的な想定ケースをあげていき、職員がイメージトレーニングをすることができたが、BCPとしては不十分と感じた。
- ・ 子育て支援センターとの交流や、紅梅マルシェやテレビ放送を通じてこども園の保育内容等を知ってもらうことができた。地域の方、卒園児、入園検討中の親子等もたくさん来てもらい今後も引き続き情報発信していく。
- ・ こども誰でも通園制度の準備を行い、4月から開始となる。
- ・ 医療的ケア児保育について、看護師を中心として準備をすすめることができた。

5. 課題

- ・ こどもの発達に寄り添った活動計画をたてていく。幼保小連携のカリキュラムの見直しを、小学校と今後も行っていき、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識した保育を行う。
- ・ 主任の事務時間の確保をしていく。
- ・ 職員の個人差（知識・技術・責任感）が大きく、抱える仕事量に差が出てしまう為、心理的負担に繋がっている。
- ・ BCPについての整備は不十分。地域との連携も高めていく。
- ・ 乳児等通園支援事業の安定した事業運営を行っていく。

6. 財務状況

当法人監査により、適正に運営されていると認められている。